

3 番 和 田 皆さん、おはようございます。それでは、一般質問を始めさせていただきますと思います。

受付番号1番、質問議員3番、和田成功。

件名1、「(仮称)山北スマートIC周辺土地利用構想の進捗状況は」。

2、「AEDのさらなる普及啓発を」。

1、当町において、令和2年9月に人口1万人を切り、令和3年5月1日現在の人口は、9,878人で、人口減少の流れは止まらない現状がある。新型コロナウイルスは観光業などを中心に、地方圏にも深刻な打撃を与えているが、東京一極集中の是正を掲げる地方創生という長期的な視点に立った場合、追い風となる可能性を秘めている。

現在整備中の新東名高速道路に、(仮称)山北スマートインターチェンジの設置が決定し、令和5年度には供用開始が予定され、首都圏からの山北町へのアクセスが向上することが期待されている。(仮称)山北スマートインターチェンジの周辺地域において、産業・観光のゲートとしての土地利用展開を図り、観光・交流・人口の増加と新たな産業振興につなげることが重要と考え、(仮称)山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想について質問する。

①(仮称)山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の進捗状況は。

②今後、(仮称)山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の実現に向けた取組の考えは。

2、安心で安全なまちづくりを掲げている当町として、AED(自動体外式除細動器)を公共施設等に設置しているが、AEDについての普及啓発に、さらに努める必要があると考え、質問する。

①公共施設等のAED設置及び活用状況は。②町民を対象とした救命救急講習会等の開催状況は。また、今後のAEDについての普及啓発計画は。

以上。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、和田成功議員から「(仮称)山北スマートIC周辺土地利用構想の進捗状況は」、「AEDのさらなる普及啓発を」についての御質問をい

ただきました。

初めに、1点目の（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の進捗状況はについて、一番目の御質問の（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の進捗状況はについてであります。町では、令和2年3月に、（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想を策定し、現在、本構想に示されている土地利用展開イメージの実現に向けて取り組んでいるところでございます。

これまでの取組状況といたしましては、昨年度、神奈川県知事らが出席する足柄上地域首長懇談会や、県議会議員との政党ヒアリングにおいて、県の協力や支援を要望いたしました。

また、中日本高速道路株式会社など関係機関に対しましても、本構想への協力をお願いするとともに、地元の御意見を伺うため、清水あり方研究会とも話し合いを持っているところでございます。

そして、庁内関係課で構成される調整会議を設置し、事業化に向けた検討を進め、本構想の五つの土地利用展開イメージの中でも、特に、スマートインターチェンジから県道76号へとつながるアクセス道路周辺の景観演出やオアシス公園など、道の駅山北周辺の眺望スポットの整備を優先的に事業化する方向といたしました。

さらに、本年4月には、庁内調整会議の下部組織として、関係課の若手職員からなるプロジェクトチームを設置して、より具体的な検討に取り組んでいるところでございます。

次に、2番目の御質問の「今後、（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の実現に向けた取組の考えは」についてであります。現在、先ほど申し上げましたプロジェクトチームにおきまして、優先して事業化する二つの土地利用展開イメージの実現に向けた検討を進めております。若い職員の柔軟な発想により、本町の地域振興へとつながる様々なアイデアを創案してもらい、それらを慎重に整理した上で、町の新たな玄関口となるスマートインターチェンジ周辺の土地利用構想概略図を作成し、県西土木事務所など、関係機関との事前相談や地域住民への説明を進めてまいりたいと考えております。

また、本構想に示されている残りの三つの土地利用展開イメージである大野山からの眺望スポットや、旧清水小・中学校、旧清水保育園の有効利用などにつきましても、引き続き調査研究を進めてまいります。

次に、2点目の「AEDのさらなる普及啓発をについて」、1番目の御質問の公共施設等のAED設置及び活用状況はについてであります。AEDの設置状況につきましては、役場本庁舎や健康福祉センター、幼稚園・保育園・小学校・中学校、児童館等の公共施設に32台、社会福祉協議会等の町関連施設に2台、山北つぶらの公園等の県の施設に4台、駐在所等の警察及び消防関係施設に8台、金融機関に4台と、町が把握しているAEDは50台あります。

活用状況につきましては、平成18年度の設置以降、現在までに3件の活用が確認できております。

次に、2番目の御質問の「町民を対象とした救急救命講習会等の開催状況は」、また「今後のAEDについての普及啓発計画は」についてであります。町民を対象とした救急救命講習会につきましては、令和元年度及び令和2年度に開催を計画しておりましたが、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

また、民生委員児童委員を対象に、毎年講習会を実施しておりますが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

今後につきましては、広く町民の方にAEDの設置状況を把握していただくとともに、講習会等を開催し、多くの方がAEDを操作できる環境を整えることが、緊急時における救命率を高め、安全・安心のまちづくりにつながるものと考えておりますので、新型コロナウイルス感染症がいまだ収束のめどが見えない状況ではありますが、感染防止策を講じた講習会や普及啓発方法を検討してまいります。

議 長
3 番 和 田

3 番、和田成功議員。

それでは、答弁を受けて再質問させていただきます。

まず、（仮称）山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の中にも書かれております、町の目指す望ましい土地利用についての基本的な考え方を示すものとありますので、町の目指す望ましい土地利用とはどのような

に考えられているのか、お願いします。

議 長

企画政策課長。

企 画 政 策 課 長

山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の中に書かれております町の土地利用の目標ということなんですけれども、スマートインターチェンジ周辺の土地利用構想の基本的な考え方といたしまして、一つは、山北町の新たな玄関口として、産業・観光の新たなゲート空間を形成していこうというのが一点ございます。

それと、スマートインターチェンジ、ほかの自治体等もスマートインターチェンジ等につきましては、周辺施設に様々な観光的な施設ですとか、あるいは物流企業ですか、そういったものを誘致等している自治体等もございまして、現実的な話で、山北スマートインターチェンジ周辺の土地につきましては、そういった利活用できる土地が非常に少ないといった中で、本町の目指すスマートインターチェンジ周辺の土地利用の関係につきましては、できるだけ既存の施設を有効的に利活用していこうというのが一点ございます。

既存施設というのは、インター周辺で言えば、御案内のように、ふれあいビレッジ、あるいは道の駅、オアシス公園、この辺りをリフレッシュして有効活用していこうというのが一点ございます。

それと、あとインターから山北方面ですとか、静岡方面、そちらへのアクセスが非常に、これからインターができることでアクセスが有効的に活用できるようになっておりますので、そういったアクセス性を生かして、山北、あるいは小山町の方面、それともちろん、三保の丹沢湖方面、こちらについてもアクセス性が向上いたしますので、そういった部分でできるだけ既存の施設を活用した中で、あとはインターができることによってアクセスが良好になる、そういった部分を考えて中で土地利用を図っていくということが町の考え方でございます。

議 長

和田成功議員。

3 番 和 田

今の説明、理解いたしますが、次に、土地利用の方向性が求められているといった部分で、町として、新たな土地利用の方向性をどのように捉えているのか、いま一度お聞きしたいと思います。

議 長 企画政策課長。
企画政策課長 先ほどのインターの周辺の土地利用の考え方とも関連してくる話でございますけれども、土地利用の基本方針といたしましては、町外からの来訪者の機会が増えるということで、まず来訪者を増やしていこうというのが一点ございます。

それと、先ほども申しましたように、既存施設の魅力を高めていく、これも土地利用の基本方針の中で考えていることございまして、繰り返しになりますけれども、インター周辺で、現在ある施設、あるいは、現在有効に活用していない施設、そういったものの魅力を高めていくということもございます。

それと、あと周辺の施設でございますね。インター周辺から若干離れている施設、例えば、つぶらの公園ですとか、あるいは、三保の丹沢湖周辺の施設、そういったものとの連携も図っていくというのが考え方ということになってございます。

議 長 和田成功議員。
3 番 和 田 それでは、答弁表の中に、県の協力や支援を要望いたしましたとありますけど、そのときの感触というのを、その辺をちょっとお聞かせ願います。

議 長 町長。
町 長 特に、玄関口となりますスマートインターチェンジの、河内川ふれあいビレッジについては、二度ほど被災しておりますので、川の線形を、沢の線形を変えるように県のほうに要望しておりまして、何とかその方向で行くのではないかというような、今見通しを立てております。

ほかにも当然、オアシス公園のところ非常に河川区域ということで、いろいろな縛りがございますけれども、それに対しても何とか有効利用ができるような方向にお願いしているということございますので、それらについては、今のところ、まだ確定した返事はいただいておりませんが、今後とも粘り強く交渉していきたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。
3 番 和 田 続きまして、答弁の下、本構想への協力を中日本高速道路株式会社、あと関係機関に対しまして、本構想への協力をお願いしていると。中日本高速道

路のほうの感触とはどういう感じなのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 中日本さんあたりのところは、非常に今、本工事が始まって、ちょうど、これから残り2年ぐらいの中に、最終的な工事をしなければいけないということで、いろいろな地質によって、変更が生じております。

そういったようなことも含めて、我々としては、協力するという事は協力する、そして、またこちらから願います、それによって様々な土地利用、あるいはまた我々が気がつかない観光的なところとか、あるいは様々なところが町の景観が変わってくることによって生み出されていくというふうを考えておりますので、そういったことについて、中日本さんに今、いろいろなデータを頂けないかというようなことでやっておりますので、そういったものも頂けるのではないかとというふうに期待しております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 そうですね。協力、支援等を要望したり、要請したりしていることは必要だと考えております。

続きまして、答弁書の下にあります、清水あり方研究会とも話合いを持っているというふうな御回答がありましたけれども、その辺の進捗状況というか、進み具合、点検具合を説明願います。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 清水のあり方研究会のほうの関係なんですけれども、昨年8月の末にあり方研究会の方が、町長室のほうに来られまして、その際に、町長のほうから、この土地利用構想の関係のほうの御説明をさせていただいて、あり方研究会のほうには何か御意見等ありましたら、町のほうまで御連絡をいただきたいというような話をさせていただきました。現在、清水のあり方研究会さんのほうでは、清水地区の清水地域経営基本方針というものを、コンサルさんを入れた中で、清水地区の中でまとめている状況でございまして、この中で、スマートインターチェンジの関係も示されるという形になってございます。それで、あり方研究会のほうでは、昨年度、まずは清水の住民の方に説明をして、説明をして、その説明が済んだ後に町のほうに報告をしたいというようなお話をいただいているところなんですけれども、地域の説明がコロ

ナの関係でちょっと若干遅れているようなことをあり方研究会の会長さんのほうからは伺っておりますので、あり方研究会というか、清水地区の御意見につきましては、まだはっきりとは伺っているわけではございません。

ただ、この清水地区地域経営基本方針というものの概要版を、私、見させていただいたんですけども、基本的な考え方として、清水地区におきましても、やはりスマートインターチェンジができることで、核となるのがふれあいビレッジと道の駅、それとあと、ふれあいビレッジの北側に水田がございますので、その辺を活用してもいろいろ何か、地域振興に取り組んでいきたいというようなことでございますので、町の土地利用構想、スマートの土地利用構想の考え方とそれほど大きな差はなくて、方向性としては、同じような方向性で向かっているのではないかというふうには考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 清水あり方研究会ですかね、まだ、地域住民との説明がまだできていないということで、正式には町のほうへちゃんと報告がなされてないというお話でしたけど、タイムスケジュール的に供用開始が、令和5年度にはもう予定されているんで、その辺のタイムスケジュール的には間に合うんでしょうか。その辺ちょっとお聞かせ願います。

議 長 町長。

町 長 スケジュール的には、令和5年の今3月開通というような見込みでやっております。

その後、いろいろな撤去しなければいけないものを、1年ないし2年かけてということで撤去していく。そして、令和7年度ぐらいから着手ができるんじゃないかというふうなことで、町のほうは計画しておりますんで、令和5年の前にどうしてもやらなきゃいけないのは、やはり案内板であるとか、看板とか、そういったものは何とかやりたいというふうに思っておりますけれども、実際に手をつけるとすると令和7年からというふうになるんじゃないかというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、御回答ありました本格的に手がつけられるのは、令和7年からというふうなことなんですけれども、なるべく早い対応を、手をつけるのは令和7

年だとしても、計画とかそういうものはなるべく積極的にスピード感を持ってやっていっていただきたいというふうに思います。

先ほど、答弁の中で、構想から、エリアから少し離れますけど、三保地域並びに共和地区の施設の有効利用というような話もありましたけど、そちらの三保地区、共和地区との連携というのは、どのように今現状されているのでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 共和地区につきましては、土地利用構想の中に大野山からの眺望スポットの整理というような形になってございます。

これにつきましては、インターができるということで、インター周辺、造成されたのり面等ができますので、眺望的にも新たな景観という形で、町の景観スポットとして整備していく必要があるということを考えて上で載せたわけでございますけれども、具体的に共和地区と、この関係について話を持ったことは、現在はございません。

ただ、今後、町長が毎年行っております座談会等ございますので、そういったときで、情報提供等していきながら町の考え等を示していきたいというふうに考えてございます。

それと、あと三保地区の関係でございますけれども、三保地区の、今実際に休止しているような施設の活用につきましても、これについてはインターとはちょっと別の形で利活用については検討を進めておりますので、直接スマートインターチェンジの土地利用の関係とはちょっと切り離れた中で、新たな利活用について、検討を進めているような状況でございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、そういうふうな御答弁ありましたけど、やはり地域との連携というのは、大変これから先、重要になってくると思いますし、清水地区だけじゃなく、共和、三保、3か所一体となったような、総合的な、そういう連携をとりながらの周辺整備、土地利用というのも、やはり視野に入れてこれから取り組んでいくべきだと考えます。その辺を積極的に地域連携等を図りながら進めていっていただきたいと思います。

続きまして、答弁書の中にあります庁内調整会議ですかね、その辺の進捗

状況で、若手職員らのプロジェクトチームを設置したと。その辺の話合いの中でどういったものが進んでいるのか、お聞かせ願います。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 昨年度、課長級の会議体を立ち上げまして、2回ほど会議を開催いたしました。その中で、やはりこれから町を背負っていく若手職員の意見をやはり入れていくべきだろうというような話がございます、今回、今年度からプロジェクトチームを立ち上げさせていただきました。

プロジェクトチームにつきましては、企画課、都市整備課、新東名対策室、商工観光課、財務課、それとあと定住対策課の職員で、平均年齢が大体31歳ぐらいの若手の職員がメンバーとなっております。

今回、今年度につきましては、プロジェクトチームの会議も2回ほど開催させていただいております、その中でいろいろ意見をいただいているのは、ウェルカムサイン、この関係ですね。ウェルカムサインの設置場所ですとか、サインのデザイン、それと、あとアクセス道路の景観整備ということで、どのような木を植栽していくとか、どのような花を植えたらいいかとか、そういった部分と、あとオアシス公園の公園の改修の関係で、どのような改修が考えられるかということと、あと来町される方を重視するのか、あるいは地元の方も利用してもらおうようなことも考えていくのかとか、その辺りの関係を検討させていただいております。

それとあと最後に、道の駅の関係でございますけれども、道の駅の機能充実につきましても、プロジェクトチームの中でいろいろな意見をいただいているといったような状況でございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 若手職員と構成でプロジェクトチーム、若い方の柔軟な発想を実現できるような取組を今後していただきたいと思います。

ちょっと戻りますけど、道の駅山北の周辺整備というところで、以前にも私、質問の中で提案させていただいた、電気自動車の充電器、EV充電器というのも、やっぱり設置していったほうが、これから来町者が増える環境等を考慮した中で、やっぱりそういう設置台数を増やすような、そういうふうな方向性も一つ必要ではないかと考えますが、その辺についてはどうですか。

議 町 長 町長。

議 町 長 当然、そういったような和田議員のおっしゃるような充電器とか、そういうのが必要だというふうに思っておりますけど、いかんせん、道の駅だけですと面積が非常に少ないということもございますので、オアシス公園とかそういったことを視野に入れながら、そちらのほうにもやっていきたいというふうに思っております。基本的には、いろいろな土地利用について、若手職員の意見とかそういうのをやって、なるべくいい提案をいただきながらやりたいというふうに思っておりますけども、一番のネックになりますのは、前にもちょっとお話ししましたように、スマートができたときの交通量が一番ネックになるだろうというふうに思っております。やはり、当初の計画より増えた場合に、なかなか国道に対する246の入り口の件、あるいは、また県道の改修等、大型バスとか、そういったものの改修等を、簡単にはいかないというふうに思っておりますので、私としては、インフラも含めたところで、そういったようなことを計画していかなければいけないというふうに思っておりますので、できれば令和5年、7年あたりまでに、ふるさと納税を活用して、基金をためるとか、そういったようなことも含めながら、こういったような土地利用、そのスマートインターの地域の活性化に向けて準備をしていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ皆さんからもいろいろな提案をいただければというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 答弁の中に、交通量が増えたりして大型車の往来等で、交通の問題等が出てくるかもしれないといったところで、地域からよく聞かれているかもしれませんが、清水やまなみ橋ですかね、歩道がきちんと設置されていない状況で安全性がきちんと保たれるのかと、地域住民また来町者の方があそこを通るときに、大型車が擦れ違うような状況で、歩行者の安全というのは、やっぱり確保していかなければいけない課題の一つだと思います。

そういった部分で、歩道の確保とかそういうものも、やっぱり今後、取り組んでいくべき課題だと思いますけど、その辺については、どのようにお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 現在、山藤線の玄倉の玄倉じゃなくて、玄倉寺のところからやっておりますけれども、やはり相当に年数がかかっている。そして当然、大型車のすれ違いについても、全数ができるかどうかは別としても、待避所とかそういったものが必要でしょうし、また来ていただいたときに、駐車場等も非常に三保地域とか清水地域についても、非常にまだ整備が遅れている、少ないというようなことがございます。そういったことを含めて、やはりそれらが一番、行政としては考えなければいけない、また来ていただくためには、そういったような施設整備というのをしていかなければいけないということがございますので、ぜひとも、それに対してのいろいろな準備をしながら、そして皆さんの望まれるような土地利用で施設ができればありがたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 そういう町民の安全性といいますか、来町者の安全というのを確保しつつ、土地利用を有効に進めていっていただきたいと思います。

続きまして、本年度の予算計上もされていますスマートインターチェンジ周辺の土地利用構想概略図ですか、この作成というふうに答弁書にも書いてありますけど、その辺のタイムスケジュールとか、その辺の御説明願います。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 スマートインターチェンジ周辺の土地利用構想概略図の御質問でございますけれども、先ほどからお話出ておりますように、今、プロジェクトチームの中でいろいろ意見をいただいて検討している状況でございます。スケジュールでいいますと、プロジェクトチームの会議を、8月までに4回開催する予定になってございます。

それで、4回目の会議の中で、概略図の案をプロジェクトとしてつくっていただくというような形になってございまして、その案につきまして、10月に庁内の課長級の庁内会議がございますので、課長級の会議の中でその案について、いろいろ検討して、修正する部分があれば修正、あるいは、あとは理事者等の意見を当然伺わなければいけませんので、そういった関係で進めていく予定になってございまして、現在の予定ですと、11月頃には、おおむね概略図が作成できるのではないかとというようなスケジュールになってござ

います。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 作成予定が11月頃というお話でしたけれど、これは、地域の意見は取り入れられないといいますか、できてから地域に発表するというような形なのでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 あくまで概略図でございますので、地域の意見を聞かないで作成して、作成した後に地域の意見を聞くという考え方もございますけれども、事業の進み具合によって、地域の方に示すことができるようなタイミングであれば、地域のほうにお示しして、御意見を伺いたいというふうに考えてございます。

それとあと、清水のあり方研究会さんのほうにも、当然、御意見等を伺わなければいけませんので、そちらのほうにも併せて意見を伺うような形で現在考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 そういうふうに、地域との連携を強化しつつ進めていっていただきたいと思います。

ちょっと多少前後しますが、土地利用構想の目標にある丹沢湖周辺や中心市街地との連携を図るというような文言もありましたけれど、中心市街地に来町者を引き込むような、その考え方は、今のところどういうふうな考えがございませうでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 インターを下りた方を、一つはやまなみ橋を渡りまして、左に行くか、右に行くか、左に行けば丹沢湖、右に行けば山北方面でございます。

そして、山北方面につきましては、現在、洒水の滝の遊歩道の整備も進んでございますし、あるいは、洒水の滝から南足柄に抜けて、箱根に抜けることもできますので、そういったルートも大切にしていきたいというふうに考えています。

それとももちろん、丹沢湖方面、中川温泉がございませうので、町の観光の中心でございませうので、そちらのほうにも導線も当然考えていかなければならないということで、現在、具体的な考えといたしましては、やまなみ橋の正

面にそういったルートを示すような看板を設置するということと、あとインター下りた方に、まずは道の駅に寄っていただいて、道の駅で山北町の観光情報を発信しながら、丹沢湖方面、あるいは山北方面にこういった魅力があるかといったようなものを観光情報として、来られた方に見せていくというようなことで考えておりますので、どちらを重視するのではなく、両方向、山北方面も三保方面も有効的に観光客のほうにはPRをしていきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 どちらを選択するかは来庁者の方の判断だと思いますけど、町全体として、来た方を受け入れるような、そういうものはやっぱり今後必要だと、それにはやっぱり地域を越えた連携といいですか、そういったものも今後積極的に連携を強化してやっていっていただきたいと思います。

それでは、次の2番目の質問のAEDについて質問させていただきます。

答弁書の中に、町が把握しているAEDの数が50台というふうになっております。町の共有施設等にも設置されているとは思いますが、設置の目的というのをどのように考えておられるか御説明願います。

議 長 保険健康課長。

保 険 健 康 課 長 当然、心臓等が止まった場合、緊急的に医療機関につなげるまでの間の措置として、心臓が止まった状態を蘇生させるための医療器具だというふうに捉えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 では、利用者の対象はどのように捉えているのでしょうか。

保 険 健 康 課 長 町の施設につきましては、そういった利用者に対しての利用を考えております。また、幼稚園・保育園につきましては園児、学校につきましては生徒・児童、教諭も含めたものでございます。

あと、その他としましては、児童館等もございますけれども、そちらのほうも利用される方、一般の町民の方、そういった方に対して、利用されるということで捉えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今答弁で、施設の利用者を対象としているというふうなお話でしたけれど、

やはり地域住民、近隣の方がもし必要になった場合に、やっぱり利用できるようなそういう対象に広げる、そういう考えは町長ございませんでしょうか。

議 長 保険健康課長。

保 険 健 康 課 長 基本的に施設内に設置しておりますので、利用されている方がいられる場合は、そういった時間帯であれば、その施設利用者以外の方の利用も可能でございます。

また、役場だとか、そういったところにつきましては、日直等がおりますので、そういったときには利用は可能と考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、答弁で施設がやっているときであれば、周りの方が必要であれば貸し出すという、利用ができるというようなお話でしたけれど、町が設置しているのであれば、町民の安心・安全というふうなことを考えれば、AED、設置しているんですから、24時間、365日使えるような状況で設置するべきだと考えますけど、その辺についてはいかがお考えでしょうか。

議 長 保険健康課長。

保 険 健 康 課 長 今現在、こちらのAEDの機器につきましては、リース契約をしているところでございます。そういったところで、実際のところ、警備保障会社のほうとの契約の中で行っておりますが、もしその町民が施設外で使用するということになりますと、それなりのその器具を保管するボックスだとか、あとAEDを外で利用するためには、警備会社との24時間の契約、そういったことも必要になってくるというふうに考えております。

議 長 副町長。

副 町 長 ただいまの御質問ですが、AEDの関係、例えば地域でちょっと運動会とか、ちょっと人寄せとか、そういうことがあったときに、ちょっと相談していただければ、役場のほうに。できるだけのこと貸し出すような形や方法を取りたいと考えておりますので、施設が開いてなきゃ、閉まっちゃっていると、AEDがそこにあるのに閉まっちゃっているから使えないということがないように、できるだけそういうふうなことはやっていきたいというふうに考えています。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、副町長のほうから答弁ありましたけど、貸出しを行って、より安心・

安全のまちづくりというふうなのも言っていますが、まだ周知はされてないと思うんですね。その辺されているのでしょうか。その辺を確認したいんですけど。

議 長 副町長。

副 町 長 十分じゃない点はあると思います。ですから、いろいろな団体とか、自治会とかにこういう場合があったら貸し出すことも可能なんだよということを、今後伝えていきたいというふうに考えています。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 伝えるのであれば、団体とかそういうのに限らず、地域住民、町民全員にそういうことが周知できるような広報の仕方を検討していただきたいと思えますし、貸し出す、イベントがあって必要性があるかもしれないというので借りていくというのは可能かもしれないですけど、やはり安心・安全のまちづくりといった部分では、なるべく24時間、365日、常に、どこかに、どこにあるというような感じで、いつでも使えるようなそういう状況、費用的には、現在の予算よりはオーバーしてしまうかもしれないですけど、やっぱり町民の安心・安全のためには、その辺まで取り組むべきだと私は考えますが、町長はその辺どう考えますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、そういうような、和田議員と同じような考えは持っておりますけども、しかし一方で、その管理とかそういった問題については、なかなか難しいところもある。ですから、例えば役場等がそういったところについては、今後そういうような、24時間来ていただければ使えるというようなことは可能だというふうに思いますが、なかなかほかの施設については、夜中に管理者がいない、あるいは、鍵も閉まっているというようなことを考えますと、なかなかそういったところに使えるというのは難しいのではないかと。

また今回、これは町関係のところだけでありますけども、民間のところでも、例えば、お医者さんや歯医者さん、そういったところにはほとんどついております。

またほかの民間のところにもございますので、その地域で、もしそういう

ようなこともできるのであれば、そういったことも視野に入れながら協力いただくということは、一つの方法ではないかというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、町長おっしゃいましたように、民間企業でも設置している状況もあります。そういったところで、近隣ですとか、ほかの自治体等では提携を結んで、民間企業の導入に積極的に取り組んでいる自治体等もありますし、広告をつけて民間負担で設置をしているようなところもあるようなので、その辺も調査研究を進めていただいて、山北町に合うような、そういう設置の仕方をしていただきたいと思いますし、今後 24 時間、365 日使えるような、そういう設置の検討も積極的に進めていっていただきたいと思います。そして、町有施設とか民間施設等に設置されておりますけれど、やはり山北町、面積広いので、空白地域というのがどうしても出てきてしまいますんで、そういったところ、なるべく空白地域がないような、全ての町民が使えるような、そういう設置の方法も一緒に検討していただきたい。

それと、設置状況なんでございますけど、町のほうの設置、町関係、県、そういったところの関係のところは、AEDマップ等に掲載されておりますけど、日本は設置しても登録する義務がないということで、なかなか設置場所が明確になっていないというところで、AEDマップの製作等を積極的に進めるべきではないかというふうに考えておまして、今、たしか県立山北高校ですか、提携しておりますけど、地域探求とかの授業で。もしあれでしたら、高校生の力を借りて、連携して、山北町内の独自のAEDマップの製作、そういったものを作っていく方法とかというのも、一つ考え方としてはあるのかなと。そして行く行くには、ハザードマップ等に落とし込んでいく、そういったことで町民全員にAEDの設置場所、そういったところの周知が可能になっていくのかなというふうに考えますけど、その辺についてはどう考えられますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 設置場所については、町のほうで把握している、町の施設については当然把握しておりますけども、そこを例えばハザードマップとか何かで一式的に落とし込むのはそんなに難しくないというふうに考えておりますけど、その

入ったときに、どこにあるかというようなところまでということになりますと、その辺は、また工夫しなきゃいけないことだというふうに思っております。基本的には、位置関係については、町のほうでそれらを把握しておりますので、それぞれについて町民の皆さんにお知らせするという事は、そんなに難しいことではないというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 それで、町、県等がやっているものに関しては、把握されて登録されていると思うんですけど、民間企業はやっぱりAEDマップ、ネット上で見させてもらいますけど、ほぼ掲載されてないような状況なんで、やっぱりそこで先ほども言いましたけど、協定を結んでいる県立山北高校等の地域探求の課題の一つとして取り組んでいただくようなことも可能ではないかと思うんですけど、そういった方向性は考えられてないでしょうか。

議 長 町長。

町 長 AEDに限らず、様々な町民の安心・安全のために、今、ハザードマップ等も改定したり、様々なことをやっております。皆さんが使いやすい、分かりやすい防災というような安心・安全というのかな、非常に大事だというふうに思っておりますので、そういったような改定に合わせて、おっしゃるようなものを入れ込みできるようなものについては、入れ込んでいきたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 町民の安心・安全のためにも設置状況等を町民が広く周知するように取り組んでいていただきたいと思います。

続きまして、講習会等のところについて質問させていただきますが、令和2年度、かなり新型コロナウイルス感染症の影響で中止されているというような答弁でございましたけれど、やっぱり新型コロナウイルスというのを踏まえてウィズコロナ、アフターコロナというところで、新しいような救急蘇生法について、感染予防対策を講じた上での救急救命というのがいろいろ出されているようなので、その辺の周知というものも今後必要になってくると思いますけど、その辺の考えと活動というんですかね。啓発については、どのように考えられていますか。

議 長 副町長。

副 町 長 先ほどから議論の中でAEDはあればいいというものではなくて、使い方が分からないというのはどうしようもないわけです。私自身も、私と町長とも研修とかそういう講習は受けていますけれども、自治会の多くの町民にできるだけ大勢の方に使い方を理解していただきたいということで始めたわけなのですけれども、これ言い訳になっちゃう、新型コロナの関係で人を寄せることはできないということになっていきますので、これは少し落ち着いたら、また再開して、多くの自治会の方にやっていきたいというふうな形で議会からも再三言われておりますので、その辺のほうは考えていきたいというふうに考えています。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 感染の状況でなかなか開催が難しいのは承知しておりますけれど、なるべく多くの町民の方にAED操作マニュアルがありまして、それを見れば分からない方でもできるというのが大前提だとは思いますが、一度でも講習を実際に受けている、実際触れていると、やっぱりスムーズに処置ができるというような話も聞いております。そういった部分で、多くの町民、できれば全町民がAED等の講習を受ければ一番いいのですけれども、そういった部分で小学校、中学校、あと高校ですか、山北には二つ高校があるというような認識ですけれど、そういったところにも積極的にAED講習を取り入れていくというようなことも必要ではないかと思えますけど、その辺いかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 職員につきましては、年間の中で位置づけてやってございます。ただ、コロナの関係ですとね、これまでは消防にお願いして、講師のほうをお願いしてやっていたのですが、昨年は職員の中で講習をやったというようなことで、これは年間の中にちょっと位置づけて、職員も入れ替わりありますので、その辺のところも含めて、この辺のところのAEDだけじゃなくて、人工呼吸、この心肺蘇生法、これについて研修しているということでございます。

それで、先ほど山北高校の話が出ておりましたけれども、総合防災訓練で、

向原地区については山高を中心にして、またその会場を中心にして、いろんな心肺蘇生法を地域の人に講習したり、あるいはいろんな炊き出しですか。ああいったものを実際に作って食べてもらうとか、そういった訓練というか、そういったものを実際行っているのですね。ですから、山北高校については、そういった面の協力をいただいているところでございます。ですから、こういった形で高校生にそういった面で力を発揮してもらうのか。地域と連携とって進めていくのか。そのところはこれからさらに詰めていく必要があるのではないかなというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 時間も無いようなので、最後にしたいと思いますが、今答弁がありましたように、やっぱり積極的に周知といいますかというのを進めていただきたいし、全町民が24時間、365日利用できるような設置の仕方というのも見据えて、今後検討していただきたいと思います。

最後ですけど、そういった意味でAEDとかという設置、または普及啓発について、今後の考えですかね。町長、何かありましたら一言お願いします。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、様々な取組をしていきたいというふうに思っておりますので、ぜひとも皆さんの御協力をいただければというふうに思っております。